

「クビアカツヤカミキリ」対策事例抜粋

むねざね樹木医・環境カウンセラー事務所



樹木医 宗實久義

クビアカツヤカミキリの生態

特徴

- ・成虫の体長は、約2.5～4センチ。全体的に光沢のある黒色で
- ・胸部(前胸背盤)が**赤い**・オスはメスよりも触角が長い
(体長の2倍近い)
- ・生きた樹木につく。
(**サクラ、ウメ、モモ、スモモ、ハナモモ、アンズ**など)
- ・フラス(虫糞) うどん状 樹木の状態(水分量)による。
- ・産卵数が多い。約300個(保有卵1000個！)
- ・独特の臭いがする。(ジャコウ臭?!)
- ・被害木の枯れ方



被害木の 状況1



被害木の 状況2

2017.7.8 モモ
樹液・フラス

被害木の 状況3



2018.5.9 ソメイヨシノ
樹液・フラス



間違いやすいフラス(ゴマダラカミキリ)

何がどう違うか



フラス内の繊維質が長い

ゴマダラカミキリ



クビアカツヤカミキリ

樹体が衰退すると
サラサラに

今、実施されている対策

- 啓発活動
- 事前調査（**未被害地**）

被害地

- 巡回調査（フラス）（捕殺）
- 薬剤注入（登録農薬）
- 樹幹注入（サクラ）
- 薬剤散布
- クビアカガードネット・防鳥ネット被覆（産卵・脱出防止）
- 巡回点検（捕殺）（刺殺）
- 被害木の処分（伐倒、搬出、焼却等）
- これらを年間スケジュールで繰り返す。

各、長所・短所を
知り、組み合わせ
対策が必要。

注1) 登録農薬の適用樹種を確認して下さい。

注2) 果樹については残留農薬等の問題があり、登録農薬、
使用制限等に注意する。

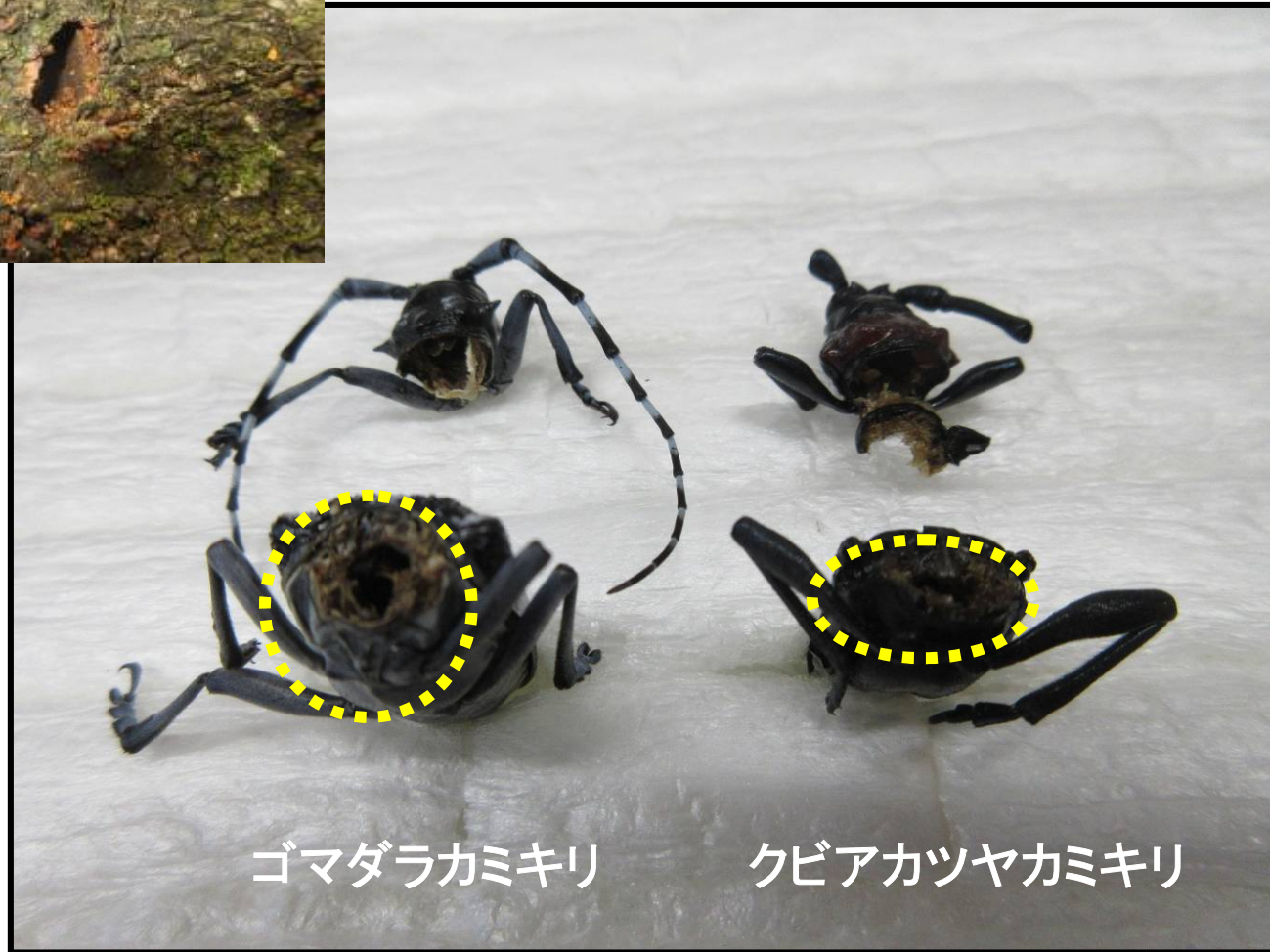




脱出孔の形状が違う訳

なぜ、楕円形？ → 体の形状に合わせている

クビアカは楕円形



ゴマダラカミキリ

クビアカツヤカミキリ

発生現場の状況

ネット巻きの課題

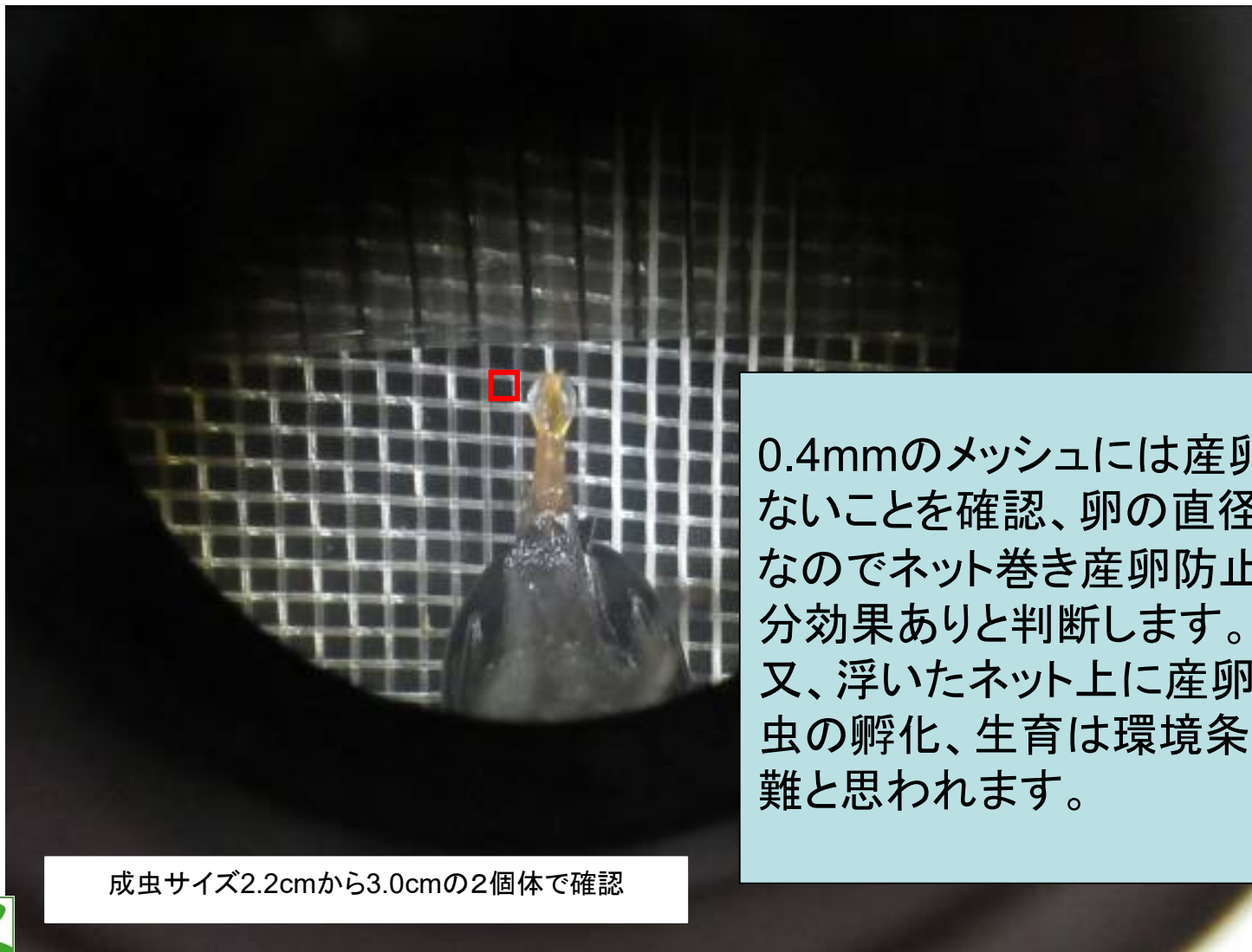


ネットは地際、根株まで確実に覆うことが大事

モモ被害の連鎖



対策事例とその検証結果



0.4mmのメッシュには産卵管は入らないことを確認、卵の直径も約2mmなのでネット巻き産卵防止抑制に充分効果ありと判断します。

又、浮いたネット上に産卵された幼虫の孵化、生育は環境条件から困難と思われます。

成虫サイズ2.2cmから3.0cmの2個体で確認

大切な巡回点検

- フラス除去が大事



二重でもフラスが溜まると噛み切られる。

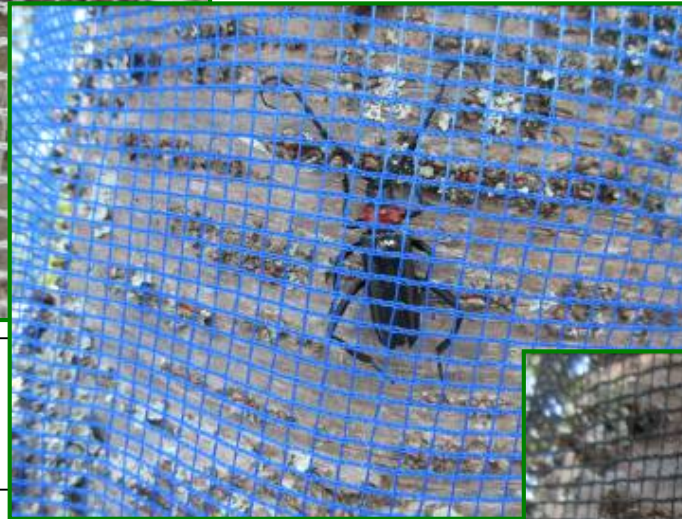


2018年5月18日 埼玉県つつじが丘公園

視認性の検証結果



N400ホワイト



BL400ブルー



BK400ブラック

黒色がよく見える！

産卵・脱出防止ネット(0.4mmブラック)

クビアカガードネット

- 視認性がよい(巡回時に捕殺しやすい)
- 産卵されない(産卵管が入らない目合い)
- 脱出しにくい(噛みきられにくい目合い)
- 加工性がよい(つなぎ目はホッチキスで可能)
(根元はUピン留めで可能)
(ハサミで簡単にカットできる)
- 耐久性がよい(5年程度)
- 施工後の景観がよい

注)硬いもので擦ると破れたり、鳥がつつくと小さな穴があく場合があります。



検証課題 フラスが溜まれば幼虫が噛み切る

2020.9.20



成虫と幼虫は顎の構造が違う。
フラスが溜まり、ネットと一体化すると排糞のため幼虫が穴を開ける。(二重巻きでも同じ事例を確認)
穴が大きければ成虫脱出の可能性も？



ネット巻きの仕様書徹底で改善

未被害木(ストレート巻き)

被害木(ネットを浮かすテント巻き)



巻き付け施工事例



大阪府



埼玉県



ネットの脱出抑制検証

2020年1月19日設置



徳島県板野町立東小学校グラウンド

被害木(フラス多数、ソメイヨシノ衰退木)



ネットの取り外し検証結果(脱出防止)

2020.9.20 3頭死骸



クビアカガードネットの効果

- ・脱出抑制ができる。(噛み切られない)
- ・ネット内の成虫は死ぬ。
- ・産卵もできない。
- ・但し、ネットの無いところから脱出する。

根株シートの開梱検証結果

①2020.6.27 2頭死骸

②2020.9.20 4頭死骸



防草シート
BB1515(通常タイプ)

根株シートの効果

- ・ひこばえ抑制ができる(光合成阻害)
- ・脱出抑制ができる(噛み切られない)
- ・産卵もできない。
- ・根株は枯死する。(材の変質)



クビアカガードネット施工(最新版)



胴吹き発芽抑制



ひこばえ・草抑制

- クビアカガードネット
- ・施工が容易(ホッチキスで縫合)
 - ・中が見える(成虫捕殺・フラス確認)
 - ・産卵できない(0.4mm目目合い)
 - ・脱出抑制(噛み切られない)



産卵、脱出抑制完成

最新情報を整理した対策

2020.11.26 現在

近隣に被害木がある限り、永遠に飛来して産卵される。

飛来した成虫を殺虫、捕殺して産卵させないことが大事。

(成虫対策用登録農薬を幹に散布する) 果樹は登録確認

- **被害木の幼虫を殺す。(これが一番現実的)**

被害木のフラスが出ている孔に徹底して薬剤注入・被害木に樹幹注入

※孵化直後の幼虫は無防備(幼虫対策用登録農薬を有効活用)

- **産卵防止対策をする。(化学的防除と物理的防除の組み合わせ)**

0.4mmの産卵防止防虫ネットを巻く

保護剤を塗布する。注(効果の期間は1~2ヶ月)

薬剤を使用する場合は、登録農薬を使用する。

- **被害を受けた木は、脱出防止ネット4mmネットか0.4mmネットを巻く。**

(巻く期間はスケジュール表参照)

(その他、巻き方、巡回時のフラス除去等は資料参照)

※黒色のネットが有効(視認性があり、発見、捕殺もしやすい)

- **伐倒処置(発生源対策)**

被害木は可能な限り、伐倒、抜根して適正な処理をする。

(根株の処理は重要)



次なる課題が待っている。

- 早期対策が遅れると防除対策がきわめて困難
特定場所初期侵入 → 限定地域定着 → **分布領域拡大**
- 伐採時期の調整
果樹は経済的な価値から、サクラは市民の理解が得られないと**伐倒が出来ない**。
今、この段階
- 個人邸，個人管理地（発生，被害確認が遅れる）
- 高齢化、限界集落による放置果樹園（養殖場化となる）
- 危険木化（落枝、幹折れ、倒木による人的、物的被害）
- 里から山へ（本格的な日本への永住が始まる）

終わりに

現時点の私見として、クビアカツヤカミキリへの対策は、護れる所(低密度化)と、護れない所(結果的な放置)に二分化、クビアカツヤカミキリに地理的境界は無く、餌木がある限り被害地は広がり、放置された被害木から発生し続け、いずれは国内に定着して継続的な被害を与える害虫となると思われます。

対策は、「社会的、経済的価値判断」により、果樹園、重要木、並木等景観地域、公共公園等の保護が必要な樹のみ重点的に予防防除を行いつつ、低密度化を図り、一般のカミキリと同レベルの対策で被害が軽減出来る状況、持続可能な体制を作っていく事が重要と考えています。

いち早く、被害場所の情報公開が望まれます。

